

# ナシジョイントV字樹形栽培定植2年目の果実生産性

福島県農業総合センター果樹研究所 栽培科

## 1 部門名

果樹—ナシ—栽培

## 2 担当者名

南春菜、額田光彦、遠藤敦史、渡邊善仁、三田村諭、佐久間宣昭

## 3 要旨

浜通り地域のナシ産地の早期復旧と経営安定のため、早期多収で高品質果実生産が可能な栽培技術の確立が望まれている。定植2年目に収穫可能な早期成園化技術であるジョイントV字樹形の実証ほ場を設置し、有望な晩生品種として期待されている「甘太」及び「王秋」の1年生苗と2年生苗の定植2年目における収量を明らかにした。

- (1) ジョイントV字樹形とは、従来の平棚ジョイント樹形に対して、主枝の高さを80cm程度とし、そこから側枝を斜立させて樹形を形成する。平棚ジョイント樹形に比べて必要な苗の長さが短いため、植栽本数は多くなるが大苗育苗を経ず導入が可能である。
- (2) 所内は2018年12月、現地は2019年3月に苗を定植し、定植2年目の2020年に果実を初収穫した。ジョイントV字樹形栽培の収量(10a当たり換算)は、「甘太」で約900~1,450kg、「王秋」で約630~1,730kgとなった(表1)。晩生種の成園時の目標収量4,000kg/10aに対して、定植2年目で約16~43%の収量を得ることができた。また、花芽着生率についても、特に「王秋」において次年度の結果確保に十分な数を確保できた(表2)。

表1 所内及び南相馬市現地ほ場におけるジョイントV字樹形栽培「甘太」「王秋」の収量(2020年)

品種	定植時の苗の樹齢	ほ場	10a換算収量(kg)	1果重(g)	10a当たり植栽本数
甘太	1年生	現地	903	563.7	356
		所内	1,078	697.1	408
	2年生	現地	1,169	581.6	207
		所内	1,429	567.3	250
王秋	1年生	現地	629	601.9	237
		所内	1,733	662.2	314
	2年生	現地	866	653.6	158
		所内	1,445	744.5	214

注)10a換算収量=1樹当たり収量×10a当たり植栽本数

表2 所内及び南相馬市現地ほ場のジョイントV字樹形栽培「甘太」「王秋」の花芽着生率(2020年12月調査)

品種	定植時の苗の樹齢	ほ場	1年枝花芽着生率(%)	2年枝花芽着生率(%)
甘太	1年生	現地	27.6	24.8
		所内	42.4	42.8
	2年生	現地	35.1	36.5
		所内	58.0	45.3
王秋	1年生	現地	27.6	50.5
		所内	62.2	60.0
	2年生	現地	39.9	61.0
		所内	69.1	66.1

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成30~令和2年度
- (2) 研究課題名 浜通り地域におけるナシとブドウの早期成園化技術導入に関する実証研究〔食料生産地域再生のための先端技術展開事業(JPJ000418)〕

## 5 主な参考文献・資料

- (1) 柴田健一郎ら, ニホンナシ‘幸水’ジョイントV字樹形の初結実における収量,果実品質特性,園学研17別1,'18[果樹], p.62, 2018.